

そ の 他 の 調 査 研 究

美術工芸研究室・建造物研究室・歴史研究室・平城宮跡発掘調査部・

飛鳥藤原宮跡発掘調査部・飛鳥資料館・埋蔵文化財センター

南都諸寺寺誌資料の収集ならびに研究（科研一般研究A 研究代表者長谷川誠）美術工芸・建築・歴史・考古の各部門の協力によって南都諸寺関係の寺誌、縁起類を収集し、逐語的かつ総合的に研究しようとするものである。昭和42年以来継続して行なっているが、現在は『護国寺本諸寺縁起集』の検討を実施中である。また、前に検討を終えた『七大寺巡礼私記』の索引原稿を作成した。関連資料収集のため東大寺ほか各所の調査・写真撮影を行なった。

美術工芸・歴史研究室

海住山寺文化財総合調査 1974年6月、海住山寺所蔵の美術工芸品、典籍古文書を総合的に調査しようとするもので、多くの新資料を発見した（詳細前掲）。未調査のものも多く、今後も継続して調査を進める。

美術工芸研究室

写真測量による仏像実測調査 平城宮跡発掘調査部計測修景室と協同で実施している写真測量による実測調査については、本年度は正倉院御物伎楽面の図化作業を進めるとともに、従来から行なってきた本調査を整理し『写真実測量による仏像実測図集』（昭和50年平凡社刊）刊行のための資料の整理、研究をおこなった。

仏像における光背・台座の基礎的調査研究 仏像の荘厳具である光背・台座に関する資料を収集し、その形式変遷を実証的かつ復元的に考察しようとするもので、47年度から継続しておこなっており、本年度は主に菩薩像に関する資料の収集と研究を進めた。

仏教図像の資料収集 開所以来仏教美術の基本資料となる仏教図像の資料の収集とその整理を絵画部門が中心となっており、本年度も『大正新脩大藏經』所載の図像の整理と新発見の白描図像等の収集をおこなった。

歴史研究室

東大寺文書調査 1974年9月～'75年3月、文化庁よりの委嘱をうけ、3箇年計画で東大寺現蔵の古文書を調査し、目録ならびに調書を作成する。49年度（初年次）においては未成巻文書第1部（寺額）第10（薬園庄）までの調査を了えた（貸出中の文書を除く）。

西大寺典籍古文書調査 1974年6月、'75年2月、従来よりの調査の継続で、49年度においては全17函の調書を作成すると共に、古文書その中の主要資料の写真撮影を行なった。

仁和寺典籍古文書調査 1975年2月、従来よりの調査の継続で、古文書ならびに塔中藏階下収納の典籍類（主として版本）を調査した。

その他の調査研究

醍醐寺典籍古文書調査 1974年8月, 薄草紙口決紙背文書(永仁・正安年間奥書)の調査ならびに写真撮影を行なった。

その他の調査(依頼を受けたもの)

石山寺 石山寺一切経調査, 1974年7月・12月・'75年3月, 石山寺よりの依頼によるもの。

(調査責任者: 嵯峨美術短期大学長 佐和隆研氏)。

興福寺 春日版板木調査 1974年4月・10月, 文化庁実施の調査に協力。

東寺 観智院聖教調査 1974年6月・9月, 京都府立総合資料館が実施の調査に協力(文化庁補助金による古文書等緊急調査の一つ)。

高山寺 典籍古文書調査 1974年7月・12月, 富山文化財団研究費による共同研究(代表者: 東京大学 築島 裕氏)。

建造物研究室

新潟県民家調査 昭和49年度に, 新潟県教育委員会の依頼により, 県下の民家緊急調査を実施した。調査した民家は合計240棟ほどにのぼった。この調査によって, 県下の民家の概要をつかむことができた。古い民家は信濃川に沿う中越地区に多く, もっとも古い家は寛文年間の建築と推定される守門村の佐藤家である。(宮沢智士)

福岡県民家調査 福岡県の民家調査はすでに昭和43年度に行なわれていたが, この調査を補足し, さらに重要文化財指定候補選定の資料を得るために, 福岡県教育委員会に協力し, 沢村仁氏とともに, 約70件の調査を行なった。くど造の農家や入母屋・妻入り・塗籠の町屋等に当地方の民家の特色が見出された(鈴木嘉吉・岡田英男・中村雅治)

旧米谷家住宅の解体修理 昭和47年度重要文化財の指定をうけた国(文部省)所有の旧米谷家住宅(樫原市今井町)は, 近年とみに破損の度を加えたため, 今年度より2箇年の予定で解体修理に着手した。工事は, 当研究所が文化庁より支出委任をうけ, 建造物研究室が調査と工事管理にあたった。初年度は建物を一旦すべて解体し, 諸調査を行なったのち, 組立てにかかり, 屋根瓦葺き上げ, 荒壁塗り立てまでを完了した。解体調査の結果, 角座敷は後世増築されたものであること, 柱位置がかなり変更されていることなどが判明し, 建立当初の形が明らかとなったので, これらを現状変更の手続きを経て復原した。建立年代を証するものは発見できなかったが, 復原後の形式からみて少なくとも18世紀中頃までさかのぼりうると考えられる。次年度は主屋の残工事と土蔵の補修工事等を行ない, すべて完成する予定である。(細見啓三)

桂離宮建築調査 宮内庁が実施する御殿修理計画立案のための事前調査に協力し, 昭和48年度に柱の傾き, 不同沈下, 土壁のレントゲン透視撮影による構造仕様調査, 写真測量による現状図作成など行なったのに引続いて, 49年度では小屋組・床組等の構造技法の調査, 土壁を一部分こそぎ落して当初から明治補修に至る各所の仕様調査等を行なった。古書院は明治26年に解体修理され部材の取替が多いのに対して, 中・新両書院は旧状をよく維持している。

(鈴木嘉吉)

平城宮跡発掘調査部

福音寺遺跡木製品の調査 松山市教育委員会が発掘調査した福音寺遺跡竹ノ下地区から、5・6世紀の木製品が出土している。1975年3月、保存方法の指導及び実測調査をおこなった。建築材、農具、工具、容器類など豊富な内容を持ち、伊予地方における古墳時代後半の生活を知る貴重な資料である。『埋蔵文化財発掘調査概報』松山市文化財調査報告Ⅶ 松山市教育委員会参照(参加者 黒崎・山本・岩本正)。

湯納遺跡 当遺跡出土の建築材・生活用具などの木製品は、九州歴史資料館で保存処理が行なわれている。1974年6月、主としてP.E.G.恒温含浸槽の操作についての指導をした(参加者 山本)。

八代神社所蔵神宝の調査(三重県鳥羽市神島町) 10月1日～2日、八代神社の神宝類は沖ノ島、大飛鳥と共に古代海上交通の祭礼遺物として知られている。鳥羽市教育委員会の協力を得て各種遺物の調査をおこなった。今回は予備調査として従来の記録と台帳を照合することをおこなった。(参加者 猪熊・佐藤・西・金子・井上)

難波宮出土瓦の調査 1974年6月10日～14日、大阪市立博物館と難波宮址発掘調査事務所において調査を行なった。平城宮所用瓦との関連資料の収集を目的としたものである。平瓦の製作技法において、双方に著るしい相異のあることを確認した(参加者 森・田辺・岡本・大脇)。

佐渡国分寺出土瓦の調査 1974年10月17・18日、佐渡郡真野町公民館において調査をおこなった。篋書きの記号瓦がぎわめて多量に出土している。それらの中には「内」「山」と読み得るものも含まれているが、人物を描いた戯画瓦に記されている「三国真人□」ほど明確なものはない。丸瓦はごく少量玉縁式がある他、行基式が大勢を占めている。平瓦は桶巻作りの痕跡をとどめるものが多く見受けられ、一枚作りの痕跡を残すものは1点も見受けられなかった(参加者 森・金子)。

九州地方出土瓦の調査 1974年11月28日、九州歴史資料館で開催された「九州古瓦展」への出品協力に伴い、九州地方出土瓦の調査を行なった。九州地方での造瓦技術の種々相など、新たな知見を得た(参加者 森・田辺・岡本・大脇)。

環境整備

平城宮跡発掘調査部

近江国衙跡 1974年4月、滋賀県の依頼により整備基本計画を指導した(参加者 牛川・田中・高瀬)。

出雪国庁跡 1974年4月～75年3月、建物表示、排水路、溝造成・植栽などの実施設計・施工を指導した。50年3月すべての整備工事を完了した(参加者 牛川・田中)。島根県教育委員会『史跡出雲国府跡環境整備報告書』参照。

宮ノ前廃寺、1974年10月、福山市の依頼により整備基本計画を作成した(参加者 田中)。

美濃国分寺跡 1974年4月～75年3月、大垣市の依頼により基本計画および南大門造成工事の指導監督を行なった(参加者 牛川・田中)。

写真測量等

平城宮跡発掘調査部・埋蔵文化財センター

観自在王院跡 1974年6月、平泉町の依頼により、庭園修復にともなう石組の現状の記録保存用資料を得るため写真測量を行なった（参加者 牛川・伊東・田中・高瀬）。

座喜味城跡 1974年6月、座喜味城跡の修復、整備にともない、その指導と、石垣の実測調査を行なった（参加者 伊東・田中・佃・高瀬）。

一乗谷朝倉氏遺跡 1974年7月、朝倉氏遺跡にのこる湯殿跡、諏訪館跡、南陽寺跡庭園を実測調査した（参加者 牛川・伊東・田中）。

春日大社 1974年9月、春日大社の依頼により美術工芸研究室と共同で同社所蔵の重要文化財置太鼓（左方）の調査を行なった。春日顕彰会『春日大社重要文化財置太鼓（左方）調査報告』（参加者 牛川・伊東・田中・佃・高瀬）

弘田柵 1974年9月、秋田県仙北村の依頼により発掘調査のための基準点測量を行なった。（参加者 伊東・田中）

奈良井町 1974年9月、建造物研究室と共同で奈良井町の町並調査を行なった（参加者 伊東・田中・高瀬）。

正倉院 1974年10月、東京大学生産技術研究所と共同で、従来より継続して行なってきた伎楽面実測調査の補足を行なった（参加者 伊東・田中・佃）。

じょうべのみ道跡 1974年11月、入善町教育委員会による調査基準点測量および写真撮影を行なった（参加者 田中・岩本圭）。

萩反射炉 1975年2月、萩反射炉修復の事前調査の一環として、現状の精密な記録保存用資料を得るため写真測量により縮尺 $\frac{1}{20}$ の平面図、立面図、断面図を作成した（参加者 牛川・田中・佃・黒崎・高瀬）。

埋蔵文化財センター

備前国分寺（岡山県赤磐郡山陽町馬屋）岡山県教育委員会を主体とした「備前国分寺跡発掘調査団」が、寺域および主要伽藍の確認を目的として、昭和49年12月より3箇月にわたる発掘調査をおこなった。この結果、寺域については、北辺を除く南、東、西の3辺の築地痕跡と両側溝を検出し、東西長が300Rのこの寺域の中軸線上に南北に並ぶ南門、中門、金堂、講堂および僧房の基壇と礎石の一部、西南隅に位置する塔の礎石据付掘方と推定される構造物を検出し、伽藍の配置、規模の大きさを確認した。（参加者 松沢・岩本・高瀬）

備前国分寺緊急発掘調査委員会「備前国分寺緊急発掘調査報告書」（1975.3参照）。

備前国分寺南門跡（北より）